



### 東日本大震災支援特別セミナー

## 個人と組織・社会 ― 支え支えあう、助け助けあう絆の再生

主催：日本産業カウンセリング学会 後援：(社)日本産業カウンセラー協会

東日本大震災から1ヶ月が経過しました。多くの人命が失われ、社会や経済におびただしい爪痕を残しました。福島原子力発電所の事故は、関係者の懸命の努力にもかかわらず深刻さを増しています。

被災された方々の支援と復興のために、私たち日本産業カウンセリング学会は「いま出来ること」で貢献したいと考え、東日本大震災支援特別セミナー「個人と組織・社会 ― 支え支えあう、助け助けあう絆の再生」を開催することにいたしました。本セミナーの収益を義援金として日本赤十字社「東日本大震災義援金」に寄付し、被災地にお届けします。

1. 日 時 2011年7月30日(土) 10時～17時30分 (9時半開場)
2. 場 所 東京大学本郷キャンパス法学部25番教室  
(東京メトロ丸の内線 本郷3丁目 徒歩8分、正門から時計台へ向かい左側校舎中央アーケードより入る)
3. 参加費 5,000円(学生2,000円)
4. 申込方法 別紙申込書に必要事項をご記入の上、事務局宛てにFAX又はメールでお申し込みください。参加申込者には、参加費振込先等をお知らせいたします。参加費のお振り込みを持って正式なお申し込みとさせていただきます。当日振込証票を受付にご提示下さい。  
申込締切 7月25日(月)
5. お申込み先 日本産業カウンセリング学会 事務局  
〒162-0822 新宿区下宮比町2番28号 飯田橋ハイタウン10階1020号室  
電話&FAX 03-5228-4418 e-mail: info@jaic.jp ホームページ: <http://www.jaic.jp/>

#### 6. プログラム

- (1) 経済社会と経営戦略の変遷は、産業界で働く個人や組織にどのような影響を与えてきたか 10:00～11:30  
グローバル化、技術革新への対応と、プロジェクトチーム、マトリックス組織、カンパニー制など組織の改革によって、働き方、人材育成、人事考課の方法が変わり、労働者の働きがいや職場の人間関係に影響を与えてきた。個人と組織のかかわり方はどのように変化してきたのだろうか。  
(講師) 桐村晋次(本学会会長、神奈川大学特別招聘教授、キャリア形成論)  
東京大学法学部、筑波大学大学院修士課程カウンセリング専攻、古河電気工業(株)人事部長、常務取締役、古河物流(株)社長、神奈川大学経営学部教授、法政大学キャリアデザイン学部および大学院経営学研究科教授を経て現職。  
(著書) 「人事マン入門」「人材育成の進め方」「日本的経営の何を残すか」「戦略経営計画の組織」「マトリックス組織の編成と運営」「企業モラルと組織行動」

- (2) 学内ツアー (昼休み中、30分)  
東大正門～時計台～三四郎池～中央図書館～赤門～スカイツリー(遠望)～東大病院～山上会館～時計台前

- (3) グリーフ・ケア―悲嘆にある家族・遺族への対応― (依頼中) 13:00～14:15  
東日本大震災では、多くの人が肉親や親しい人を亡くし、助かった人も住み慣れた家や思い出の品々を失った。悲嘆の底に沈む人たちにどう接すればよいのだろうか。大切なものを失う「対象喪失」の心理プロセスと終末期医療におけるカウンセリングに求められることについて学ぶ。

#### (4) 生きる意味の豊かさを取り戻す

14:30 ~ 16:00

アイデンティティの危機と社会システムの危機が、日本社会を直撃している。生きることを今いちど深く問い直し、生きることに悩んでいる若い人たちから、人生の後半を歩むエネルギーのありかを探し求めている年配の方々まで、「生きる意味」を求めている人々へ応援のメッセージを届け、「生きる意味」の豊かさを取り戻したい。

(講師) 上田紀行 (東京工業大学大学院准教授、社会理工学研究科・価値システム専攻)

東京大学大学院文化人類学専攻、博士課程修了。愛媛大学助教授を経て現職。

(著書) 「生きる意味」「かけがえのない人間」「グライ・ラマとの対話」「がんばれ仏教」「癒しの時代をひらく」「日本型システムの終焉」「宗教クライシス」「“肩の荷”をおろして生きる」

#### (5) 今、働く個人や組織にどんな問題が起こり、変化を続けているのだろうか

16:15 ~ 17:30

企業内カウンセラー、総務人事スタッフ、労働基準行政のマネージャー、学校教育研究者が一堂に介して、人の心に関する問題とその背景、どう取り組めばよいのかについて語り合う。参加者の積極的発言を期待したい。

## 東日本大震災の復興に産業カウンセリング学会が貢献できること、なすべきこと

日本産業カウンセリング学会会長 桐村晋次

東日本大震災、それに続く東京電力原発事故で被災された宮城、岩手、福島、茨城、千葉県等の方々に心よりお見舞申し上げます。また、ご家族、ご友人の安否が判明しない方もいらっしゃると思います。ご心痛のほどお察しいたします。

地震、津波とそれに続く、水、電気、食糧、薬品などの物資不足、深刻さを増す原発事故とその影響により皆様の困難な状況が続いています。学会員一同、自分でできる限りの支援をしたいと決意を固めているところです。国内はもちろん130を超える海外の国々からも物心両面からの支援が寄せられ、「頑張れ日本、頑張れ東北!」の声が、いっそう大きな力を持ってきています。少しずつ状況は改善されていくという希望を持って、この苦難を乗り切っていかれるよう心から祈念しております。会員も、現地におけるカウンセリング、全国各地での募金などの支援活動、危機対応やグリーフケアなどの研究・実践など、それぞれの人が自分でできることに精一杯尽力されることを期待します。学会としてもできることから着手していきます。

現在、日本は解決が難しい困難な事態に直面しており、この状況は長く続くかもしれません。しかし、私達日本人は第二次大戦、その後の幾度にもわたる大災害に対処してきました。この叡智と支えあいの精神でこの難関を乗り越えていかねばなりません。私達はひとりだけではたいしたことができないかもしれませんが、力を合わせれば「奇跡の復興」をやり遂げられるDNAを引き継いでいるのです。

本年9月にお茶の水女子大学で開催される第16回大会は、個人と組織の問題に焦点を当て「個人・職場・社会をつなぐ触媒として、産業カウンセリングは何をすべきか、何ができるか」という視点から、「快適職場づくりへの貢献」というテーマを掲げました。「支え、支えあう」「助け、助けあう」絆をとり戻すために、研究大会に多数の人が参加され、熱気にあふれた大会にするよう努力したいと思います。この2年間で、北海道から九州まで8つの学習拠点ができました。各地からの積極的な発言と行動をお待ちしています。

## 特集「東日本大震災と産業カウンセリング」

木村 周（名誉会長）

ふるさとの復興を願う

今回の地震で亡くなられた方、被災された方のご冥福とお見舞いを申し上げます。

悲しいニュースの中で、壊滅的な被害にあった石巻市で、19歳の孫が80歳の祖母を10日ぶりに助けたニュースは大きな感動を与えました。家族の絆、助け合い、忍耐、勇気、思いやりなど我が国社会の風土が生き続けていることを学びました。まずは生きることの支援と心のケアが最優先です。

福島原発事故による人々の移転に対し、各自治体が中央の指示を待つのではなく全国の自治体が自ら連携して支援活動をしているのは新しい「地域の力」を示してくれました。

これからはいよいよ雇用の場の確保と就職支援です。農業、漁業、水産業など地域の産業が継続できなければなりません。全国のパワーワークにも続々と被災者が訪れ、特別支援体制が動き出しました。緊急雇用対策を軸に従来の雇用政策を超えた対応を素早くしなければなりません。

本学会会員の皆さんはそれぞれのやり方で被災者支援に関わっていると思います。「自分の仕事や役割をしっかりとやるのが、結果として被災地の子供たち、働く人、家族、地域自体を元気にする」という言葉が一番心に残ります。

松原 達哉（理事・東京福祉大学学長）

日本の歴史上最大の地震・津波があつて、東北地方の岩手・宮城・福島の3県はマグニチュード9の大地震で大被害を受けました。心より御見舞い申し上げます。そして、一日も早く再興され、被災者の皆さんが元気になられることを祈念しております。

私は大学の池袋キャンパスの研究室内にいましたが、震度4で本棚の本が崩れ落ち、急いで構外に逃げ、あまり被害を受けませんでした。帰宅するのに、平素一時間で通勤するところ大渋滞し、車で自宅に着くのに6時間かかり午前1時半でした。

東北地方には世界各国から援助に来られて大助かりしています。日本産業カウンセリング学会としては、義援金を集め支援すること・会員の中での被災者の実態を調査し、支援すること・東北地方に行き、メンタルヘルスのケアをするとともに、研修会を実施することなどを考えたら如何でしょうか。

今野 能志（常任理事）

震災への想い

このたびの東北地方太平洋沖および長野県北部を震源とする震災と津波の被害に遭われた方々にお見舞い申し上げますとともに、亡くなられた方々に哀悼の意を表したいと思います。

このようなときに自分は何ができるのかを考えてみましたが、できることは僅かながらの義援金を提供することぐらいしかないことに無力感を感じています。

さらに、計画停電が実施されることになり、あらためて私たちの暮らしや生き方を見直す必要があるのではないかと感じています。たとえば、従来からエコが叫ばれているにもかかわらずTV放送は24時間です。コンビニも24時間開いています。

でも、果たして本当に24時間のTV放送、24時間営業のコンビニが必要不可欠なのでしょうか。たしかにコンビニが24時間開いていれば便利かもしれません。しかし、24時間営業している店がなければ生活ができないような社会がはたして尋常な社会と言えるのでしょうか。一方では年間数百トンの食糧や食材が捨てられています。そのような経済を維持するために毎晩遅くまで残業を続け、有給休暇も十分に取れないというのはどこかおかしいと感じるのは私だけでしょうか。

平川 完（理事、(財)関西カウンセリングセンター）  
危機に対応できる現場力の一つとして  
～産業カウンセリングの役割～

未曾有の大災害の状況をTV映像等で目にし、自然のエネルギーを前に言葉を失いました。日本の歴史上最大の危機と言われますが、産業界も大きなダメージを受けているようです。時代変化の激流の中での課題でもあります。産業カウンセリングの役割が改めて問われているようです。16年前の阪神・淡路大震災では、会社の福祉部門の担当者として、或いは「リンクアップ・フォーラム」という関西の企業の社会貢献担当者の定例研究会のメンバーとして、「被災地の人々を応援する市民の会」（大阪ボランティア協会）等のユニークな動きに接する機会がありました。効率指向・横並びの企業、公平原理に縛られ動きが鈍く機能不全に陥る行政機関に対して、非営利団体（NPO）の持ち味は鮮明でした。即ち、危機の中での創造性・状況に応じた変幻自在な動き・自発性・自律性への信頼から生まれる自主運営システム等

です。苦難に出会ったりした時こそ、最高の資質を発揮してきた日本のところを再評価し、「人間軸」の支援のあり方を考えるべき機会のようです。

### 浅川 正健（理事）

被災された方、ご家族、ご友人のみなさんに心からのお見舞いを申し上げます。

暖かい場所で、ほぼ平常通りに仕事や生活をしていて被災地の方々のことを思うと何を語っても、やるせない気持です。でも勇気を奮って東京から皆さんのご健康と幸せな明日に向けてメッセージを送らせていただきます。

皆さんの横に坐らせていただきたい。お子さんを抱きしめ、遊び、お年寄りの方々と時間を気にせずにお話を伺う、早くそのような機会を作りたい。寝袋や最低限の自分の食べ物を持って、最初はほんの3、4日でも、会社を休んでも伺いたい。

あの日、東京の九段会館にいた私には、次々にお見舞いのメールや電話が来ました。被災したばかりのニュージーランド、早魃や洪水に苦しむ豪州、そしてイギリスの日本協会支部で支援活動中のハンプシャーの方々、世界中が皆さんを応援していることを知りました。是非、ご自身の力を信じ、日々の辛い思いをこれから先の生きがいにつなげていくことで、日本の柔らかさと底力を世界に見せて行きましょう。必ず、素晴らしい風景が戻ってくると確信します。

### 宮崎 圭子（理事、跡見学園女子大学）

国難とでも呼ぶしかない大震災のこの状況の中、多くの被災された方々に、深くお見舞いを申し上げます。声を失うような映像、画像が毎日のように飛び込んできます。それが被災された方々の日常そのものであること、その日常をどのような想いで暮らしておられるのか想像するだけで胸が痛みます。「胸が痛む」という言葉そのものが畏れ多いと感じさせてしまうような事態です。微力ではありますが、被災者の方々のための電話相談にコミットさせて頂いております。不眠と将来の不安の前になす術もなく、絞り出すように話される方々でした。一刻の猶予もない、文字通りの緊急対応（命の安全）が、十分ではないにしても少し落ち着いてきたこれからは、「心のケア」が大きな問題となってきます。私たち心の援助専門職はどのような事が必要で、どのような事でお役に立たせて頂けるのか、真剣に議論し、真摯に迅速に行動に移す必要があるかと思われま

す。も結集すればそれなりの事ができます。被災された方々が背負っておられる負担が、1mgでも軽くなって頂くために。

### 寺田 正美（理事）

大地震、大津波後原発と続いている。国民すべてがこれからの長い年月をかけて安心な日常を取り戻す作業に取り組んでいくことになる。それぞれの生きてきた人生を一瞬に奪われた数多くの死者や未だ発見されない行方不明者のことを思うと押し潰されそうな気持になる。避難所での被災者の方たちと接するわずかな時間に語られる言葉やその表情、特に目にはまさにその中から生き延びてきた人の苦渋がある。そこにはアドバイスや励ましも不要である。‘ひたすら聴く’姿勢で応じている自分がある。アンデスの先住民族の民話である「ハチドリの一とせずく」（辻信一監修、光文社）の中の「私は私に出来ることをしているだけ」の言葉にあらためて自己の言動を見つめることとなった。この‘はちどり’は幾度も幾度も燃え盛る森と水場を往復することに疲れ果てて遂には火の中に落下するかもしれない。では、私たちの個々の思いをどのようにすれば大災害後のこのような時期に役立てることとなるのだろうか？産業カウンセリング学会のスーパービジョン委員会に所属するものとして、直接被災した働く人たちはもちろん間接的にも多大な影響を受けている方たちに向きあって相談業務に従事する相談員が身近なところで安心して、信頼して、自分の対応を振り返ることが出来、同時に心の疲れも軽減出来るようなシステムと場づくりが急がれると考えている。

### 堤 貞夫（常任理事）

#### 東日本大震災から1ヶ月を振り返る

3月11日の東日本大震災から1ヶ月近くが経過しました。いまだに行方不明とされる1万7000人を含む3万人の方々のご冥福を、心からお祈りします。

建材、瓦礫で埋め尽くされた津波の被害のすさまじさには、言葉を失うしかありませんでしたが、今回多くの場面で聞かれた「想定外」という説明には、世界最先端を進んでいたはずのわが国として残念さというより情けなさを感じました。

一方では、災害地において見られる人々の忍耐力、大都会の交通途絶に対する落ち着いた対応力にはまだまだ捨てたものでもないという安心、感心をしました。

その後の推移として分かってきたことは、国の根底にかかわる大きな問題が、この災害を契機に

即刻の対応として、方向を決定しなければならぬことです。

エネルギー政策、予算・財政問題、広域行政対応、果ては政治の大連合まで。

そこで共通していえることは、原点に立ち返って何が本筋なのかを考えること、小異を捨てて大同につくこと。天が大きな「仕分け」をしてくれたと思ひ、望ましい国の方向を決め、出来ることから実直に積み上げていくべきだと思います。

我々産業カウンセリング学会としても、人と人とのコミュニケーションの専門家として、産業の場面における対応の、基礎に遡る研究・提言が必要だと思います。

自信を持って、この国の将来、よりよい職場作り、に貢献したいものです。

### 三川 俊樹（常任理事／近畿支部長、追手門学院大学） 産業カウンセリングに携わる皆様へ

#### 一心に留めておいていただきたいこと

このたびの大震災で犠牲となった方々のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた方々、不自由な避難生活を余儀なくされている方々に心からお見舞いを申し上げます。

震災から間もなく、「産業カウンセリングに関わる者として何が出来るのだろうか？」と自らに問い、すぐに取り出したのが、昨年9月の第15回大会のシンポジウム「事故・災害・危機的状況において産業カウンセリングはどう活かせるか」の資料でした。指定討論者の私は、シンポジストの生々しい報告や鋭い指摘に大きな衝撃を受け、メモを書き留めるのが精一杯だったという記憶が残っています。その時に書き留めたメモを何度も読みかえし、産業カウンセリングに携わる方々のお心に留めておいていただきたいことを記します。

阪神・淡路大震災とJR福知山線の脱線事故への関与を通して、産業カウンセリングを活かして援助する専門家に何が出来るのかを考える中で、長期にわたる被災者・被害者の支援に加えて、あってはならない事故を起こした企業が陥った危機的状況にも関わり続けたという、遠藤瑞江氏のあの報告がよみがえってきました。

また、小澤康司氏は、危機的対応はどうしても事後対応になることを指摘し、災害や事件、事故は日常的に起こりうるものとして、危機的状況における対処の仕方を事前に学ぶことの必要性を強調されました。「それでは、『危機対応』ではなく、『日常対応』ということですね？」とコメントさせていただいたことを思い出しました。

さらに、弁護士の石井逸郎氏は、阪神・淡路大震災後の1年間で神戸弁護士会の法律相談が10万

件にもものぼり、紛争の長期化や訴訟への発展を防いだことを指摘されました。そして、法律、行政手続、年金、税、銀行システム等、かかえる相談や悩みの「専門性」が高いほど被災者にとって大きな「心」の負担となること、その「心」の負担を専門家の回答によって取り除くという点に専門家相談の意義があり、被災者生活再建支援法による適切な支援や、各種の法制度の弾力的な解釈と運用等に加えて、被災者の「心」に寄り添うカウンセリング技術や知識の習得、産業カウンセラー等との連携を課題として提案されていました。

シンポジウムでの議論をさらに深め、さらに広げていく必要があったことを反省し、本学会の研究・研修活動がこのテーマに沿って展開されることの重要性を認識しています。

### 宮城まり子（副会長、法政大学） 心にそっとより添うこと

被災者の「心のニーズ」は何でしょうか。現在、皆が同じ辛い立場のなかでひたすら耐え、ありのままの感情を外に表現することができず、心のなかの辛いこと・悲しみ・怒りの感情をじっと抑えこみ、外に表出しないままでじっと耐えていることでしょうか。こうした押さえ込んだ感情を、安心して外へ出し、表出できたらどんなに気持ちが楽になるでしょう。「話すこと」は「放つこと」です。放たれた心にそっとより添い、静かに耳をひたすら傾けること。無理な叱咤激励を決してすることなく、相手の目にはどのような世界が今写っているのかを「分かろうとする」ことが大切でしょう。支援者には、被災者の「心を聴き・心により添う・という奉仕」が最も求められています。しかし、ややもすると、支援者が聴きたいことを聴きがちです。被災者が話したいこと、つまり、「聴いて欲しいことを聴く」こと、むしろ「聴かせていただく」謙虚な姿勢の大切さを覚えておかなければなりません。

### 川上 範夫（常任理事、九州産業大学）

この度の大災害にあたりましては、阪神・淡路の時、臨床心理士会の現地本部で活動した経験から、逆にいろいろな局面がフラッシュバックのようによみがえりまして、ただいまの被災された方々の心身の状況いかばかりかと痛切に思いをはせるばかりです。

心の支援を本格化していくにはまずは現地の方々の日常生活の最低限の確保ができて、被災モードから復興モードへの転換が展望できるようになるところを敏感にキャッチして動かなければ

ならないものです。この点、我々の仲間の小澤先生が経験から示唆をくださるかと思いますが・・・

そもそも、モノ的支援と競うかのように早くから心の支援の専門を標ぼうする方々は、初めの目立つところだけに熱くなって、本当に被災された方々が心に激しい痛みをじっと抱えられるようになれる頃には撤収されているというのがたいていの姿です。(実際、「自分は初期対応だけを専門にしている」と言明する人もおられます。)

このような見地から、産業カウンセリングの専門性から被災者支援に寄与できるようになるのはもうしばらくしてからだろうと思います。それに付けても何をどのような体制で実施できるか構えは持っておかなければならないと考えます。

余計なことかもしれませんが、震災のみならずいろいろな事件、事故に絡んで、間髪入れずかわって心の支援を行ったとする人たちが、いかに現地の方々に対して無配慮の暴虐を行ってきたか、機会がございましたらお伝えさせていただきたいと存じます。(たとえばいわゆる“避難所”へ行ってストレスチェック調査用紙を一斉に配ってデータを取って行政にアドバイスをして、さっさと帰って後で学会で発表する方々、とか)

こうしたことを度々見てきた経験から、支援とは「まずはご迷惑にならないよう細心に気を付けることから始まる」と必ず戒めるようにしてきています。

これから(すでに始まっているとも言えますが)、専門家をかたって自分の成果を上げるために被災された方々の心を蹂躪してしまう様子を必ず目にするようになると思うと胸の痛むところがあります。

長くなりまして失礼いたしました。この書き込み自体が私自身の小さな震災パニック反応だと自

戒しております。

## 廣川 進

(常任理事、大正大学・海上保安庁惨事ストレスアドバイザー)  
自分ができることを地道に息長く、  
生活の中の「心のケア」として

3月27日から30日まで仙台塩釜にある海上保安庁第二管区本部に行ってきました。高台にある庁舎の道ひとつ隔てた町内の住宅は半壊もあり、災害後1週間は住民も400人ほど庁舎に避難していました。ストレスチェック(IES-R)で高得点だった26人の職員と面談をしました。自分の家や家族、親族も被害にあったり、安否確認も取れない方もいる状況下で家にも帰らず何日も不眠不休で、救難救助、遺体捜索、復旧支援の業務にあたってきた職員の方々。本当に頭が下がります。海保のみならず消防、警察、自衛隊、医療従事者など献身的活動をされた組織的災害救援者の「惨事ストレス」へのケアは今後、注目されると思います。4月中には原発関連でいわき小名浜港へ行く予定です。「心のケア」はライフラインや医・食・職・住・学の復旧復興と共に、これから長期にわたって関わる地道な仕事になります。仮設住宅での孤独死、自殺も防がねば。救援者やボランティアの志は大事ですが、人助けの高揚感や万能感が善意の押し売りや災害マニー(躁病)のようになっていないか、自己点検も肝要です。その意味でも下記の本をぜひ。

『心の傷を癒すということ』安克昌(角川ソフィア文庫)

『災害と心のケア』デビッド・ロモ(アスク・ヒューマン・ケア)ビデオもあり

## 書評

現代のエスプリ 520 2010、11

「認知行動療法の理論と臨床」 編集 内山喜久雄 制作 至文堂

本著は近年各方面から大変注目を浴びている「認知行動療法(cognitive behavior therapy: CBT)の理論と実際について、大変分かりやすく解説されており、医療・教育・産業の各領域における具体的かつ実践的な臨床事例を中心にその具体的な方法論について評述したものである。現在、特に産業臨床分野においては、労働者のメンタルヘルス不全の問題が大きな社会問題としても取り上げられており、「認知行動療法」は特にそれに対する有効な心理療法として位置づけられている。本著の第4章には、1節～5節まで「産業と認知行動療法」が設けられており、産業場面における事例として、適応障害、発達障害、社会恐怖、双極性障害などのケースを取り上げ、また休職・復職支援過程における認知行動療法のアプローチ法を具体的に提示している。これらは大変有効な事例であり、産業カウンセリングの専門家のみならず産業カウンセリングを学ぶ学生にも勧めたい一冊である。(宮城まり子)

# スーパーバイザー養成講座のご案内

## スーパーバイザー養成委員会

今年度のスーパーバイザー養成講座の日程が決まりましたのでお知らせします。試行的に実施した一昨年度の第1回目より日数を増やしたものとなっています。

ご存知のように、日本では他の先進国のようにカウンセラー養成のカリキュラムがありません。したがって、大学あるいは民間の養成機関ではそれぞれが独自のプログラムに基づいて教育しています。そのため、適切なカウンセラーの育成が行われるように、そして自己流のカウンセリングが蔓延することを防止するために、適切で効果的なスーパービジョンが求められます。

この講座を修了した後、実際に自分が担当したスーパービジョンについてスーパーバイザー認定委員会が認定した2名のメンターによるスーパービジョンを受けていただき、その上で認定されることとなります。

### 日本産業カウンセリング学会 スーパーバイザー養成講座 2011年度募集要項

#### I. 講座概要

##### 1. 開講日程(予定)

2011年11月19日(土)・20日(日)、  
11月26日(土)・27日(日)、12月10日(土)・  
11日(日)、

2012年1月7日(土)・8日(日)・9日(月)、  
2月4日(土)・5日(日)、2月18日(土)・19日(日)、  
3月10日(土)・11日(日)・18日(日)

※開講時間(予定) 原則9時開始、19時終了

##### 2. 開講条件

最少人数6名、最大人数12名で開始

##### 3. 講座概要

###### A. スーパービジョン概論

1. スーパービジョンとは
2. スーパーバイザー・トレーニングの概要

###### B. 働く人たちのカウンセリングに関する知識・スキル・情報

1. カウンセリングに関する理論
2. カウンセリング・プロセスにおけるキーポイント

###### C. スーパービジョン・スキル

1. スーパービジョン・スキルトレーニング概論
2. カウンセリング契約・目標設定のスキル
3. ケースの概念化・運営・評価
4. 組織におけるHRM,HDR,EAPとの連携など
5. カウンセラーの能力開発・ファシリテーション

###### D. スーパービジョンの倫理

1. カウンセリングの倫理
2. スーパービジョン契約に関する倫理
3. 現場手続の指導に関する倫理
4. 発生する倫理問題への対応
5. スーパーバイザーからみたスーパーバイザーの評価に関する倫理

#### E. 自己のカウンセリングとスーパービジョンモデルの明確化

1. 自己のカウンセリング哲学・理論・方法・スタイルの明確化
2. 自己のスーパービジョン哲学・理論・方法・スタイルの明確化

#### II. スーパーバイザー養成講座応募資格要件

1. カウンセリングの有資格者(産業カウンセラー、キャリア・カウンセラー、キャリア・コンサルタント、認定カウンセラー、臨床心理士、および同等の資格を有する者)で、心理面接、スーパービジョン、ケース検討会出席などを含むカウンセリングに関する実務経験5,000時間以上(そのうち、カウンセリング面接時間は2,500時間以上であること)を有する者
2. 日本産業カウンセリング学会会員暦3年以上の者
3. スーパービジョン経験(スーパーバイザーとして50時間以上、できればスーパーバイザー経験があることが望ましい)

#### III. スーパーバイザー養成講座選考基準

1. 書類審査および論文審査  
(論文テーマ:応募書類に記載)
2. 選考面接 8月27日(土)・28日(日) 予定

#### IV. 募集から開講日までの日程

- ① 5/31(火) 応募書類請求の締切
- ② 7/1(金) 受付開始
- ③ 7/12(火) 受付締切(当日消印有効)
- ④ 7/28(木) 書類審査結果の通知、  
選考面接の通知を発送
- ⑤ 8/27(土)/28(日) 選考面接

- ⑥ 8/31(水) 選考結果の通知を発送
- ⑦ 9/15(木) 受講申込・振込の締切
- ⑧ 11/19(土) 開講

#### V. 受講料

30万円

#### VI. 養成講座開催場所

東京都内

(詳細は受講者にお知らせします)

#### VII. 受講に当たっての留意事項

1. 原則として遅刻・欠席は認めない。(止むを得ない場合はB領域のみ欠席2日まで可)
2. 宿泊は自己手配・自己負担

#### VIII. 応募方法

1. 応募書類を学会事務局へ請求してください。

書類の請求締切：2011年5月31日(火)まで  
 書類の請求方法：メールまたはファックスにて住所・氏名・電話番号・メールアドレスをお知らせください。

(電話での申し込みは受け付けません)

2. 必要事項を記入した所定の応募書類を日本産業カウンセリング学会事務局へ簡易書留にて郵送してください。

応募受け開始：2011年7月1日(金)

応募受け締切：2010年7月12日(月)

当日消印有効

問合せ先・応募書類の送付先：

日本産業カウンセリング学会事務局

住所 〒162-0822 東京都新宿区下宮比町2-28

飯田橋ハイタウン1020

TEL&FAX：03-5228-4418 e-mail：info@jaic.jp

## スーパーバイザー資格認定委員会報告

委員長 平木 典子

スーパーバイザー（以下SVorと略す）資格認定委員会は、主として2つの活動を行ってきました。1つは、資格認定の方針と方法を検討し、常任理事会の承認を得て、資格認定のためのスーパービジョン（以下SVと略す）のSVを開始したこと、2つ目はその方針に従って、スーパーバイザー・トレーナー（以下メンターと呼ぶ）の訓練を兼ねた学習会（計7回）を実施していることです。その概要は以下のとおりです。

#### <SVor資格認定の方針と方法>

・方針：資格認定試験は行なわない。養成講座修了者がSVを一定期間継続して実践し、その成果の指導と評価（つまりSVのSV）によって認定する。

・方法：

1. 認定要件：「養成講座修了者は修了後2年以内に資格認定委員会が認めたメンター2名の指導・評価の申し込みを行い、以下の方法でSVのSVを受け、SVor訓練目標を達成すること」

2. 認定方法：

- ① 2名のメンターの指導・評価を3年以内

に6回以上受けること。

- ② そのうちの1ケースは、継続（同じCI）のケースに対するSVであること。
- ③ トレーニーは自己のSVケースのビデオその他の資料を提出すること。
- ④ メンターは毎回指導・評価を行い、本人と資格認定委員会に報告すること。
- ⑤ 6回以上の指導後、メンターの報告に基づき、資格認定委員会が認定すること。
- ⑥ メンターの配属は資格認定委員会が行うこと（メンターはスーパーバイザー養成講座トレーナーの中から、資格認定委員会が委嘱する）。
- ⑦ 認定のプロセスは、メンターからの評価報告→資格認定委員会の審議→常任理事会における資格認定
- ⑧ 上記の方針に基づき、現在、3名のSVor訓練を実施中。

#### <メンター学習会の主たるテーマ>

1. メンタリング（SVのSV）のすすめ方の検討
2. SVのSV申し込み書、契約書の作成
3. SVのSV評価基準の作成



## 第 93 回常任理事会 議事録

日 時 平成 23 年 3 月 25 日（金）18：00～19：45

場 所 飯田橋ハイタウン会議室

出席者 桐村晋次、楡木満生、宮城まり子、木村周、上脇貴、今野能志、杉忠重、堤貞夫、平木典子、廣川進、古山善一、三川俊樹、渡邊祐子

欠席者 奥津眞里、川上範夫、森田一寿

会に先立ち、東日本大震災によりお亡くなりになられた方々に対して黙とうが行われた。

### 1. 審議事項

#### (1) 入会希望者・退会届について

入会希望者 27 人全員の入会が承認された。また、21 人の退会届を受理したことが報告された。3 月 25 日の正会員数は、今回承認された入会希望者を含めて 1,558 人であることが確認された。

#### (2) 日本産業カウンセリング学会「実践賞」募集、表彰規程について

第 92 回常任理事会に引き続き審議が行われ、平成 23 年度に第 1 回実践賞「実践報告」の募集を行うことになった。会員への募集告知は第 16 回大会 1 号通信の発行に併せて行うことになった。

#### (3) 平成 23 年度役員選挙について

H23 年度役員選挙権は H23 年 3 月末日までに H22 年度までの会費を納入した会員に付与されることが確認され、事務局より 1,240 名となる見通しが報告された。また、5 月 14 日（土）に選挙権保有会員名簿と投票用紙を会員に送付して、郵送による選挙を実施し、5 月 26 日（木）に開票することが決定された。

#### (4) 「産業カウンセリング実践ハンドブック」出版における編集協力の依頼について

宮城副会長から標記の件の目的、対象、構成案、進行予定等が報告され、学会の対応が審議された。本件には疑義も出されたので、次回、再検討することとなった。

#### (5) その他

第 92 回常任理事会に引き続き顧問および幹事に関する運用内規が審議され、承認された。

### 2. 報告事項

#### (1) 第 16 回大会準備状況

大会準備委員より、大会テーマを「『快適職場づくりへの貢献』個人・職場・社会を繋ぐ触媒として、産業カウンセリングは何をすべきか、何ができるか」に修正したこと、3 月 30 日に 1 号通信を発行することが報告された。

#### (2) 委員会報告その他

①スーパーバイザー養成委員会委員長より、平成 23 年度スーパーバイザー養成講座の開講日程と、それに伴う募集日程が報告された。

②社会活動委員会委員長より、第 16 回大会の大会シンポジウム内容に関する準備状況が報告された。

③広報委員会委員長より、ニュースレター第 32 号の内容と発行スケジュールが報告された。

④近畿支部長より、支部研修会の開催について報告された。

⑤事務局より、大震災によって被災され方々への学会としての取り組みを企画中であることが報告された。

⑥会長より、平成 20 年 10 月の「日本産業カウンセリング学会のあり方」で発表した学会が取り組むべき課題の取り組み状況が報告された。

※第 94 回常任理事会は、5 月 27 日（金）18 時より法政大学（仮）で開催される。

## カウンセラーの専門性と資質の向上、そして、地域学習会

平成20年10月に発足して本年9月に任期を満了する現役員および事務局は、桐村会長を座長とした将来計画特別委員会の答申（資料参照）に基づき学会活動に取り組んできました。

産業・組織の変化に伴ってこのフィールドに働くカウンセラーの直面する問題も大きく変化している状況での学会活動は、それらの問題にカウンセラーが適切に対処できるように支援し、研究と実践の両面の知見やスキルを結集して産業カウンセリングを名実ともに組織性社会性を備えた専門的活動にレベルアップしていくことにほかなりません。

これを具現化するものが、答申に示された学会が取り組むべき課題であり、そのなかでも「1. 産業・組織フィールドに働くカウンセラーの専門性と資質の向上」は重要であり、「2. 地域活動の活性化」は表裏をなすものとして位置づけられます。このような観点から、従来からの近畿支部に、この3年間に新たに中部、北陸、九州、北海道、そして中国・四国と地域学習会の拠点が加わったことには大きな意味があると思われまます。

ご承知のとおり、22年度の下期には下記のような地域学習会が開催されました。初めての開催の地域、2回目、3回目の開催の地域がありますが、継続的な活動こそ学会が目指す方向、ひいては社会貢献に繋がるものと思います。幹事の皆様、是非、地域の産業カウンセリング活動をリードしていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。（事務局長）

### 第1回 北海道地区学習会

1. 日時：平成22年11月28日（日）
2. 場所：独立行政法人雇用・能力開発機構  
北海道センター 2Fホール
3. テーマ及び講師  
・「生涯発達とキャリア形成支援」  
宮城まり子 先生（当学会 副会長、法政大学キャリアデザイン学部教授）  
・「つながりで支える復職支援」  
藤原俊通 先生（陸上自衛隊北部方面隊メンタルサポートセンター長）

### 第2回 九州地区学習会

1. 日時：平成23年2月26日（土）
2. 場所：独立行政法人 雇用・能力開発機構  
福岡センター
3. テーマ及び講師：  
(1)「増加するうつ病の理解と対応（従来型のうつ病と新型うつ病）」  
緒方 一子 先生（臨床心理士、企業内カウンセラー）  
(2) ケース研究

### 第1回 中国四国地区学習会

1. 日時：平成23年2月19日（土）
2. 場所：独立行政法人雇用・能力開発機構  
広島センター
3. テーマ及び講師  
(1)「快適職場をつくる産業カウンセリング」  
～働く人のための「厚みと広がり」を持ったキャリア・コンサルティングのために～  
木村 周先生（当学会 名誉会長、元筑波大学教授）  
(2)「働く人のアイデンティティの確立と再構築－中年期・現役引退期の壁を超える－」  
岡本祐子先生（広島大学大学院教育学研究科教授・教育学博士・臨床心理士）

以上の地域学習会の他、中部地区では地域学習会の幹事のご協力のもと「多様化する現代のうつ-病前性格から治療・予防まで」をテーマとして、研究委員会主催のサテライト研究会が開催されました。

1. 日時：平成23年2月20日（日）
2. 場所：名城大学名駅サテライト
3. テーマ及び講師：  
(1)「多様化する現代のうつ-病前性格から治療・予防まで」  
神庭重信 先生（九州大学医学研究院精神病態医学分野教授、うつ病学会双極性委員会委員長）  
(2) 事例報告  
廣川 進 先生（大正大学臨床心理学科准教授）

## 資 料

○産業・組織フィールドにおける産業カウンセリングを取り巻く状況

1. グローバリゼーション、メガ・コンペティション、技術革新、食糧・資源の争奪戦の下で、日本の経営が大きく変化している。
2. 成果主義重視の人事評価、非正規労働の増加、長時間労働等により、うつ病、自殺者などメンタルケアを必要とする問題が増加している。
3. 人事のライン化、人事・教育機能のアウトソーシング、雇用形態の多様化等から、人事機能がゆらいでいる。
4. 産業構造、就業構造の変化に伴い、労働関係が多様化し、労組の組織率が低下し、集团的労使関係から、個別紛争処理に移行し、法制度も改正が続いており、労働経済や法制度などカウンセラーが学ばなければならないことが急増している。
5. メンタルケアとキャリア相談が表裏一体のものと考えられるケースが多くなっており、キャリアカウンセラーもメンタルケアについての学習が必要であり、また、メンタルケアの担当者も経営組織・人事や労働環境について学ぶべきことが増えており、メンタルケアとキャ

リア相談の両面を考慮した産業カウンセリングのレベルアップと「キャリア形成支援」が求められている。

6. 事後対応から事前予防への転換が重要である。
7. 労働環境の激変の下で、人事機能のゆらぎや労使関係の変化が進行中であり、労働者はどこに相談したらよいか、相談先が見えにくく、「駆け込み寺」が求められている。産業カウンセリングの組織内での確立が重要性を増している。
8. 学会には時代、社会の動きを背景とした臨床実践学のセンターとしての役割が期待されている。

○学会が取り組むべき課題

1. 産業・組織フィールドに働くカウンセラーの専門性と資質の向上
  - (1) スーパービジョンのあり方の検討とスーパーバイザーの養成
  - (2) 産業・組織での問題に直面するカウンセラーの教育、多様な知識の習得の研修
2. 地域活動の活性化
3. 会員への情報提供
4. 企業・組織のマネジメントに対するカウンセリングの普及活動

## 入退会の状況

平成23年1月28日現在

入会希望者

片山 養子	武島 直美	後藤千加子
喜多 紀史	功刀 達美	相田雄二郎
木村 通夫	中島 常隆	宗近 悠子
渡部ルリ子	蔦 正吾	道村 俊江
喜多 紀子	袴田 芳香	
植松 務	平賀 晶子	

退会希望会員

後藤 和也	佐久間万夫	古屋 弘隆
山田 大作	吉田 有子	林 孝
大須賀発蔵	島村 知子	桜本 洋樹
内山喜久雄	堀場 勉	山下 葉子
飯田 昭彦	本橋 和彦	瀬戸 俊幸
片原 幸一	市村 修一	飯尾 典子
伊藤 友行	越野 厚子	善見恵理子
関本 正子	馬場 洋子	阿部 忍
山田 耕嗣	樫谷 愛	

平成23年3月25日現在

入会希望者

渡辺 尚樹	平田 美樹	黒木 陽子
石丸美喜江	難波 和広	中川 浩次
青松よしみ	藤野 正徳	鈴木 昭子
西村志津子	安田 礼子	濱田佳代子
正木眞理子	葛原 英夫	小松 美香
大方 宏毅	平岡 節子	小野田純佳
滝上 晶子	清水目千博	上原 摩紀
小牧榮里子	黒田 孝士	藤永 理恵
葛馬 加奈	安藤 正人	内田 尚宏

退会希望会員

岩岡美致子	堀田 広子	中田 幸恵
安藤あけみ	本間 理絵	倉本 繁昭
鈴木 芳正	前田 正枝	石村友二郎
木村 通夫	蟹川 利枝	福田 成浩
平田 宗一	福田 憲二	安田 二三
関根 滋子	古澤 知佳	中村 治
福永 保子	宮川 裕子	産本 力

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ **東日本大震災支援特別セミナー 申込書** ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

**東日本大震災支援特別セミナー に申し込みます。**

日本産業カウンセリング学会  
事務局行  
FAX : 03 - 5228 - 4418  
e-mail : info@jaic.jp

(フリガナ)

名前 \_\_\_\_\_

〒

住所 \_\_\_\_\_

電話 \_\_\_\_\_ 自宅・勤務先 (いずれかに○)

連絡先のメール・アドレス: \_\_\_\_\_

いずれかに○をしてください

会員 (     )     非会員 (     )     学生 (社会人学生を除く) (     )

通信欄:

**第1回実践賞「実践報告」募集中**

詳細については、日本産業カウンセリング学会事務局にお問合せ下さい。